

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26671034

研究課題名(和文) 終末期超高齢者における「死を否定しない医療」への転換に関する研究

研究課題名(英文) The Characteristics of Medical Care Provided During The Last Hospitalization Of Elderly Patients Who Died In Hospital In Japan

研究代表者

伊藤 美樹子 (ITO, MIKIKO)

大阪大学・医学(系)研究科(研究院)・准教授

研究者番号：80294099

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：85歳以上の高齢者は、加齢や認知症のために生存時間の延長がQOLの向上に直接繋がらない。かつ一人当たりの後期高齢者医療費の多寡は「入院」による影響が大きい。以上より、終末期にある高齢者への余命改善のための医療を評価することが必要だと考えた。医療従事者と遺族への調査の結果、病院で死亡する高齢者は「経口摂取不良・嚥下障害」や社会的な理由による入院が多かった。遺族でも「経口摂取不良・嚥下障害」による入院についての言及が多い点は共通していたが、また病院では「経口摂取不良・嚥下障害」への対応が延命になりやすいことも経験していた。

研究成果の概要(英文)：Improvement of prognosis is a priority, even regarding the end-of-life for older people in Japan. Tube feeding or percutaneous endoscopic gastrostomy is often provided. But due to aging, dementia, and multiple diseases, prolongation of survival time does not lead directly to an improvement of QOL of people 85 years old and older. The expected increase of older people with highly medical dependency will progress in this further aging society. Thus there is a need to the shift to "medical care that does not prolong life" and 'de-hospitalization' for oldest-old people at the end-of-life stage. this study, we intend to assess and discuss the medical care for the oldest people in the terminal stages, based on interview research of the medical staff and bereaved families.

研究分野：公衆衛生看護学、地域看護学、保健社会学

キーワード：超高齢者 人工的水分栄養補給 入院 看取り

1. 研究開始当初の背景

本邦では高齢者の終末期においても予後の改善が重視され、胃瘻造設や経管栄養などの延命治療が終末期にある超高齢者にも行われてきた。しかし85歳以上の超高齢者は、加齢による自律機能の低下や認知症、重複疾患のために生存時間の延長がQOLの向上に直接繋がらない。日本ではすでに75歳以上の後期高齢者医療費が国民医療費に占める割合が3割を超え、かつ一人当たりの後期高齢者医療費の多寡は「入院」による影響が大きい。今後もさらなる高齢化の進展によって医療依存度の高い超高齢者の増加が見込まれる。以上より、終末期にある高齢者への余命改善のための医療のあり方を評価すること、入院によるサービス依存から脱却することが必要だと考えられる。

2. 研究の目的

そこで本研究では、「入院」によって提供される医療やケアが医療職や遺族からどのように評価されているのかを明らかにすることを目的として医療従事者と遺族を対象にインタビュー調査を企画した。ただし、医療従事者調査は科研費の平成25年度の大阪大学総長裁量経費の助成を受けて、先行実施していたものの分析を行った。

1) 医療従事者調査

病院で死亡転帰となった超高齢者の最終入院の実情の把握するため、看護師を対象に入院の目的、患者の意識や身体状況、家族や社会的な背景を含む入院に至る契機を、急性期病棟、療養病床、老人保健施設などに勤務する医療従事者に聞き取りを行う、また「病院死」した特定の事例についてスタッフナース、並びに管理職ナースなど複数の看護職を対象にしてケアや医療実践の経験について尋ねた。

2) 遺族調査

遺族は、研究代表者や研究分担者の機縁を

通じての家族会での周知と協力依頼、並びに対象者募集のホームページを作成し、応募者に対してインタビュー調査を行った。

3. 研究の方法

インタビューは1人1回、約1時間程度で、メインインタビュアーとサブインタビュアー複数で行った。医療従事者調査において分析対象としたのは看護師29名・介護職3名の計31名である。また遺族は調査協力が得られたのは14名分の語りを、内容別に類型化してカテゴリー化した。

4. 研究成果

1) 医療従事者調査

ほとんどの施設で経口摂取が不可能になることが「終末期である・死期が近い」患者の状態としてもっとも多く語られ、経口摂取の可否は終末期として判断する指標として共通していた。また当該施設で死亡した高齢者が入院・入所した直接の理由は、身体症状の出現であるが、その中でもとりわけ「経口摂取不良・嚥下障害」がもっとも多かった。それに続く「肺炎」や「体力低下」、「発熱」も「経口摂取不良・嚥下障害」との関係が強いと考えられた。すなわち病院等の施設で死亡した高齢者は経口摂取の低下、嚥下障害、それに伴う肺炎や体力低下、発熱の治療や対応のために入院・入所に至るパターンが多いといえる。

表1 看護師が終末期にあると認識する状態

食欲の低下
身体的症状の出現
覚醒不良・意識レベル低下
浮腫の出現
血圧低下・呼吸状態の悪化
体力・気力の低下・衰弱
治癒不能の宣告を受けたとき
尊厳が失われたとき
死期は判断困難である

表2 病院等で死亡した高齢者の入院・入所理由

身体症状の出現
疾患の憎悪
家族の負担
看取り可・長期入院可などの施設経営の方針
退院調整

死亡転帰事例に対する評価としては、「家族からの感謝や家族の意向に添えたこと」でおこなった医療提供やケアを「よかった」と評価している頻度が最も高く、ほとんどの施設が家族の感謝や意向に添えたことを「よかった」評価につなげていた。療養、一般、障害者病棟といった医療保険で医療提供がおこなわれる施設では延命によって患者の苦痛を与えた、苦痛の期間を延ばしてしまったのではないが、患者のためであったのかを疑問に過剰な医療提供、または家族の意向に添えたが患者へのケアとしては疑問を残す評価が比較的多くみられた。患者に積極的な医療提供をおこなっていない老人保健施設やホスピスでは「否定的な評価」は抽出されなかった。

表3 死亡転帰事例に対する評価

	カテゴリー
肯定的	家族からの感謝や家族の意向に添えたことによる評価
	患者の意向を忖度してケアを行ったことの達成感
	臨終時に家族を看取りにまにあわせることが出来たかどうかによる評価
否定的	臨終時に家族と患者が有意義な時間を過ごせたことによる評価
	家族からの感謝を得られなかったり家族の意向に添えたが患者へのケアとしては疑問を残している評価
	過剰な医療提供であったという評価

2) 遺族調査

合わせて 16 名から協力が得られた。調査は 2015 年 11 月から 2016 年 3 月まで実施し、データの整理が整った段階で、分析はこれから着手するところである。

人工的水分栄養補給や肺炎に関して、言及さ

れることが多かった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 7 件)

1. Yamamoto Mariko, Tamaki Tomoko, Odachi Ryo, Aga Haruka, Maura Yuki, Ito Mikiko: The characteristics of the last hospitalization and nursing plans for Elderly Patients over 80 years old who died in a recuperation hospital in Japan. 19th East Asian Forum of Nursing Scholars (Chiba, Japan), 201603
2. 大達亮、玉木朋子、城本友恵、伊藤美樹子: 療養病床における終末期高齢者への看護実践の特徴と課題. 第 35 回日本看護科学学会学術集会(広島), 201512
3. 玉木朋子、大達亮、城本友恵、伊藤美樹子: 病院で死亡した 80 歳以上の高齢者に実施された医療とそれに対する看護師の評価: 医療施設別の比較. 第 35 回日本看護科学学会学術集会(広島), 201512
4. T. Tamaki, R. Odachi, T. Sobue, Y. Kitamura, K. Hirai, C. Honda, T. Okita, J. Sado, T. Shiromoto, M. Ito: The Characteristics of Medical Care Provided During The Last Hospitalization Of Elderly Patients Who Died In Hospital In Japan. The 10th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, 201510
5. 阿賀はるか、大達亮、玉木朋子、城本友恵、佐道准也、多田世奈、山本真理子、本多智佳、伊藤美樹子、喜多村祐里、祖父江友孝: 急性期病棟での終末期高齢者の肺炎治療

の課題 80代の病院死亡事例より, 第
74回日本公衆衛生学会総会、長崎市,
201510

6. 玉木朋子、大達亮、城本友恵、佐道准也、
山本真理子、阿賀はるか、本多智佳、喜多
村祐里、祖父江友孝、伊藤美樹子: 医療施
設で死亡した80歳以上高齢者の入院の生
起と医療サービス提供の特徴. 第74回日
本公衆衛生学会総会、長崎市, 201510

7. 伊藤美樹子、大達亮、城本友恵: 超高齢者
の死亡場所の状況について 高齢化が進
展した地域の事例から . 第41回日本保
健医療社会学会大会, 東京都, 201505

〔その他〕

ホームページ等

調査協力施設向け: 超高齢者の入院に関する
インタビュー調査報告書, 201512

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤美樹子 (Mikiko ITO)

大阪大学大学院医学系研究科・准教授

研究者番号: 80294099

(2) 研究分担者

本多智佳 (Chika HONDA)

大阪大学大学院医学系研究科・特任准教授

(常勤)

研究者番号: 40625498

祖父江友孝 (Tomotaka SOBUE)

大阪大学大学院医学系研究科・教授

研究者番号: 50270674

喜多村祐里 (Yuri KITAMURA)

大阪大学大学院医学系研究科・准教授

研究者番号: 90294074

平井啓 (Kei HIRAI)

大阪大学大学院医学系研究科・招聘教員

研究者番号: 70294014

大北全俊 (Taketoshi Okita)

東北大学大学院医学系研究科・助教

研究者番号: 70294014